

崎定 長検 一級 さん

Vol.27

長崎検定受験の
大いなる意義と
今後自分がなすべき事

西村

長吉さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。ざつくばらんに寄稿願いました。

受験のきっかけは、私が親和銀行に勤務時、地方銀行の基盤である「地域」の事をより深く知る事は重要であり、長崎検定は地域の歴史文化を知り得る最適な検定だと思ったからです。2級から受験し一発合格でしたが、一級はレベルが全く違っていました。何回も不合格となり、妻からも「もうやめたら」と何度も諭されましたが、本来の目的は地域の事をもっと知りたいということだったので、あまり気にならず、とにかく合格するまで受験しようと思ひ、今回運良く合格出来ました。合格した事より今まで勉強し多くの事を知り得た事が非常に有意義だったと思っています。学んだ知識を埋没させる事なく時には振り返り知識の見直しをし、また新しい知識を得る努力は怠らないようにしようと思っています。

ところで、私が地域の歴史・文化に興味を持つ事ができましたのは、親和銀行が地域の文化発展のために以前から力を入れ、地域社会へ貢献していた環境で業務に従事していたからです。銀行の文化事業の例として、皓台寺後山の小曾根家の墓地内に、坂本龍馬の盟友「近藤長次郎」の墓があります。皆様ご存知の通り長次郎は英国密航計画

が露頭、亀山社中盟約違反として切腹、墓に碑銘「梅花書屋氏墓」と記されています。長次郎の墓は一時期荒れ果て無縁仏化していましたが、郷土史家等、関係諸氏と協力し合い小曾根家墓地内に移転しました。墓の横に親和銀行建立の碑が立っています。

また親和文庫として多くの著書を発行しています。第7号「崎陽論攷」(渡辺庫輔氏著)、第9号「長崎街道」(永島正一氏文・小林勝氏写真)、第17号「長崎出島の食文化」(箭内健次氏監修)、第18号「長崎ぶらり散歩」(原田博二氏著)は特に知られた著書であります。皆様もぜひご一読されるようお勧めします。

それから私の願いですが、私の散歩コースで大好きな「聖福寺」の一日も早い修復の着手です。新たに3体の仏像の内部から五臓が、確認され重文指定に大きな弾みとなったようですが、数多くの県・市指定の有形文化財があり「いろは丸事件」交渉の場・映画「解夏」のロケ地、7・8代市川團十郎供養塔等枚挙にいとまがありません。他の唐三ヶ寺に負けない魅力いっぱい寺院であります。行政・会議所の皆様、もっと強力に市民の協



力を呼び掛けてください。最後に、現在私はホテルに勤務していますが、多くの他県・外国のお客様にご利用いただいています。「長崎」を知ってもらうために、検定で学んだ事を活かし、地域発展に少しでも貢献したいと思ひます。そしてすばらしい長崎の歴史・文化を未来に継承していく役割を担っている事を認識すべく、決してこの長崎の地を衰退させてはならないと思ひます。



【プロフィール】

1954年 長崎市生まれ 59歳
●ニュー長崎ビルディング(株) 代表取締役社長
●ホテルニュー長崎 1号議員
●長崎商工会議所
●元親和銀行 取締役常務執行役員